第 19 回日本集団災害医学会で報告しました（江川、佐々木）(2014/2/25)

場所：東京国際フォーラム（東京）
テーマ：「災害医学　–全ての医療者が学ぶべきもの–」

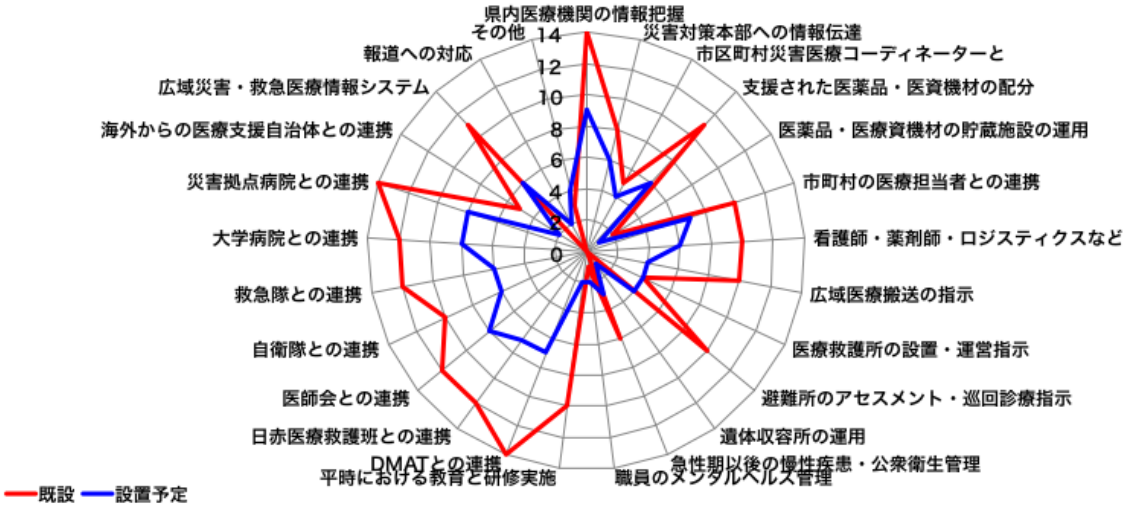
2014 年２月 25, 26 日に東京国際フォーラムで開催された第１９回日本集団災害医学会で、江川新一教授がパネルディスカッション３「災害医療コーディネーター」で災害医療コーディネーター全県調査について、佐々木宏之助教が「優秀演題２」で医療機関の受援計画に関するアンケート調査について各々報告しました。今回は東京医科歯科大学救急災害医学分野の大友康裕教授が会長を務められました。大友教授は日本 DMAT の創設に関わられた日本の災害医療の第一人者であり、南海トラフ地震・首都直下地震に備え医療者が何を準備・対策しどのような活動を取るべきか、など活発な討論が行われました。国内外の災害医療従事者・研究者、日本 DMAT 隊員など参加者 1700 名に及ぶ盛況な学会となりました。

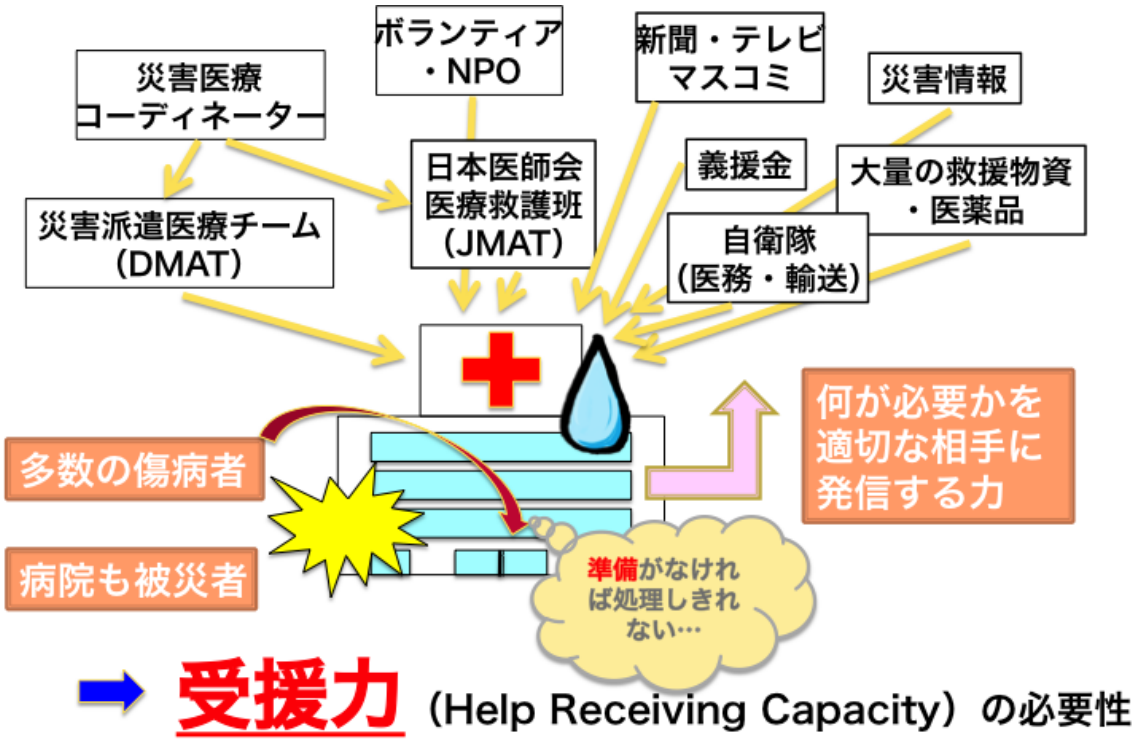
当研究室では 2013 年に特定プロジェクト研究として、上記報告のアンケート調査を行いました（いずれの詳細も当研究室 HP http://www.irides-icdm.med.tohoku.ac.jp にアップしてあります）。災害医療コーディネーターのパネルでは、大規模災害発生時の医療ニーズを一元的に把握し医療資源を差配する災害医療コーディネーターにはどのような職種の人材が相応しいか、また急性期以降の医療支援体制をどうするかなど活発な討論が行われました。優秀演題セッションでは、災害医療の場では支援する側に立つことの多い DMAT 隊員や救急医に、自分が助けられる側に回ったとき「上手く助けられるために」病院として何を準備しておくべきか、受援計画について佐々木助教が講演しました。

佐々木助教は翌 2 月 27 日に東京医科歯科大学湯島キャンパスで開催された NDLS (National Disaster Life Support)の BDLS (Basic Disaster Life Support)プロバイダーコースに参加し、多数傷病者災害に対応できる災害トレーニングプログラム、SALT (Sort, Assess, Life support, Treatment and Transport)トリアージについて学習してきました。

次回、第 20 回日本集団災害医学会は 2015 年２月 26~28 日、東京都立川市で開催されます（会長：国立病院機構災害医療センター小井土雄一先生）。災害医学研究部門のみならず当研究所の様々な部門が参加・発表し東北大災害研のプレゼンスを示す良い機会かと思われますので、所内多数の方々のご参加をお待ちしております（実際、BCP 関連、津波関連、避難対策、行政関連など医療以外の演題に多数の聴衆が集まっておりました）。

コーディネーターに期待される役割





➡ **受援力**（Help Receiving Capacity）の必要性

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）